

春の永代経のご案内

長善寺

カメムシが多かったのに、この冬の雪はそれほど積もりませんでした。どうやら太平洋側に多く降る気候だったようです。春の永代経のご案内をさせていただきます。お釈迦様は二月十五日に亡くなりました。その日を涅槃会と言います。涅槃とは「悟り」のことです。お釈迦様はご自身の死を「完全なる涅槃に入る」と言われました。そして、私たち仏弟子は釈尊の死を一つの理想として憧れてきました。

願わくは花の下にて春死なん その如月の望月の頃

釈尊を尊敬し桜の花が大好きだった西行法師の歌です。素敵な境地です。



釈迦涅槃図（お釈迦様は死をどう迎えたのでしょうか）

数年前の涅槃会の時に、京都の東福寺で見た高さ十数mほどの巨大な涅槃図を思い出します。生きとし生けるもの全てが、お釈迦様の死を悲しんでいました。お釈迦様はご自身の死をもって人の生き方を示されました。死もまた生の一部であり、完全なるさとりの世界へ往くことであると言われるのです。お釈迦様の涅槃の時の様子は涅槃経に書かれています。その涅槃経を大事にされたのが親鸞聖人です。教行信証には涅槃経からの引用が多数あります。心を打つ物語も書かれています。

当山の春の永代経の厳修のご連絡をさせていただきます。お念仏させていただきます。幸せを共に味わいましょう。

一、日時 四月二十六日（土）

日中 十時 粗食ながら昼食を準備しています。

速夜 一時 お勤め 自坊にて、

日中：正信偈念仏・和讃・法話「釈迦涅槃図を読み解く」

速夜：大無量寿経・和讃・法話「十二光に照らされて生きる」